

衣音

Kinu-oto

絹の触れ合う音、時にきりっとした緊張感を与え、
時にやさしい安らぎを与えてくれる気がします。
昨今、絹に似た繊維がいろいろ開発されていますが、絹ならではの音、
天然繊維だけが持つ独特のこの音と同じものはないでしょう。
自然と自然、本物と本物があわさりにすれあい奏でる、
喜びの音楽なのかもしれませんね。
これからも「伝統文化を守る会」は、
本物を大切にしていきたいと思っております。

伝統文化を守る会事務局

〒980-9811 仙台市青葉区一番町 2-11-1 (柵)グランベル内
Tel&Fax 022-268-2171 Fax 専用 022-215-0671



西村宏美

杉野ドレスメーカー女学院卒業
日本女子大学卒業
パリ ES MODE プロ養成機関(CFCM)に
て立体的裁断を学ぶ
NDP (日本繊維文化協会) 正会員
1994年9月
「グランベル」を開店、創作活動に入る
平成9年9月
「伝統文化を守る会」を興し代表となる

Work

1994 年よりタイ、イタリア、日本、マレーシア、スイス、台湾、フランス、韓
国、ドイツ等、FIMT 主催の国際ショーに毎年参加。1998 年、初のパリコレク
ション開催。以後、ヨーロッパはパリを中心にコレクション多数開催。1999 年
より中国人民政府主催の国際ショーに多数参加客演。2005 年ドイツ・ベルリ
ン国際ショーに参加。2006 年マレーシア・ペナン及び中国・杭州国際ショー
に参加。2007 年台湾・台北国際ショーに参加予定。

アーティスト会員のためのコミュニティスペース

小さなスペースを大きな夢空間に！



ご来店いただいているお客様はすでにご存じですが、グランベル店内中央には展示用のガラス棚が設けられて
います。これは会員の皆様のコミュニティースペースとして活用していきたいとの西村宏美の以前からの
願いをもとに、店内改装した二年前に設置されたものです。

たとえば、壁にはレール式のワイヤーハンガーが、店内中央にはネットパネルが設置されていますので、
写真や絵画などの展示にご利用いただけます。また会員様用に開放する展示用の棚が三段 (30×180cm
が二段・60×230cm 一段) ありますので、パッチワークや刺し子など手芸品の展示が可能です。

趣味の手作り作品発表の場としてはもちろんのこと、プロの会員様には作品の展示・販売の場やアンテナ
ショップとして、活用していただきたいと思います。店内にはテーブルと椅子もごさいますので、お買い物
の帰りにお気軽にお立ち寄りいただき、会員様の作品をご覧いただきながらしばしおつろぎ下さい。

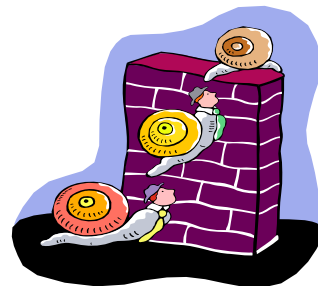
西村宏美はこの小さなスペースを大きな夢空間に変えて、楽しい場にしていきたいと考えております。

アーティスト会員のためのコミュニティスペース

Yoshiko Takada - 高田吉子

Loiseau de Few - 「ロワゾー・ド・フー」

今夏、アーティスト会員・高田吉子様作品「ガラスのアクセサリー」を展示しました。ペンダントを中心に存在感あるインパクトの強いもの、氷細工のように涼しげなものなど10数点。夏のイメージが強いガラス細工ですが、やさしい手触りが心を和ませ、なぜか温か・・・高田吉子様の手から作りだされる飴細工のような楽しく夢のある作品ばかりです。



手 作 り ア ー ト 作 品

ガラス工芸作家 高田吉様が、「あそびごころ」たっぷりに作った飴細工のような作品の数々。

この世に二つとない、そして二つと出来ない、愛しきもの。

カタツムリだったり、ヘビだったり、時には美味しい菓子に見えたり・・・

その時の気持ちで感じたままに・・・

ペンダントはもちろん、ベルトに、ペーパーウェイトに、オブジェに・・・と、

あなたのセンスでおしゃれに生かしてみても・・・

きっとやさしい手触りが貴女の心を和ませてくれることでしょう。

高田吉様が「伝統文化を守る会」にご入会くださったのは2001年の3月でした。福島民友新聞社の山田美喜雄様より「Me&You」の取材を通して巡り会いました。能装束一式を海外に運ぶのは大変なので、西村宏美の和風ドレスを着こなして、同年の夏、外国人に日本の伝統文化「能」を披露して下さいました。その時、私もパリに滞在していたので早速航空券を買い求めパリから2時間あまり、初めて北アフリカの大地を踏みました。能楽堂にすら行ったことのない私が、チュニジアの宮殿のようなホテルの大広間に朗々と響きわたる彼女の美声・・・堂々とした身のこなし・・・に、感激したことを思い出します。

当時は、アパレル関係のショップを運営されていましたが、カラーリストの資格を取得され、後には、ガラス工芸作家としての道を歩まれた高田吉子様。しかし、声楽家を目指した高校時代からの夢はいつも忘れることはなかったそうです。

能やシャンソンなど幅広く歌い続けた高田吉様が、この度、**歌手デビューの夢を実現**させるのです。

ガラス工芸家としても「あそびごころ」たっぷりの作品を作られる高田吉子様、歌うことへの情熱も人一倍お持ちです。コンサートの開催と同時に**ファーストCD「あなたへの愛」も発売**することとなりました。当日の**ステージ衣装は西村宏美が担当することになりました**。そちらも、どうぞお楽しみに・・・。

「伝統文化を守る会」は、高田吉様様の益々のご活躍を応援してまいりたいと思っております。

詳細は同封のパンフレットをご覧ください

問い合わせ先 高田吉子音楽事務所 「ロワゾー・ド・フー」 Tel&FAX 024-593-3866

E-mail love.for.you@mac.com

URL <http://web.mac.com/yoshiko.takada>

アーティスト会員のためのコミュニティスペース

*** - Nyui - ***

「nyui」 - 「ニューイ」

若さ溢れるアーティストの作品です。

今月からは**ジュエリー・デザイナー「nyui」**の作品を展示しております。

「nyui」は昨年独立したばかりの東京の若いデザイナー。

独創的なデザインから作者のやさしさが伝わってくる・・・そんな作品ばかりです。

オーダーならではの丁寧な質の高い作品のよさは写真では表現できません。

どうぞ**御来店頂きまして、手にとって実感**して頂きたいと思います。



ブランドコンセプト

日常のふと目に留まったキレイなものや楽しいものや
変なもの・・・

そんな心動かされるもの達をコンセプトにオブジェ、アート
色々な顔を持ったジュエリー
流行にとらわれることのない、

いつまでも身に着けていられるジュエリーをコンセプトに展開している。
一つ一つこだわりを持って丁寧に大切に手造りしている

「nyui」デザイナープロフィール

ヒコみづのジュエリーカレッジ卒業後、ジュエリーデザイナーとして勤務。

後、オリジナルジュエリーの制作デザインを始める。

都内ショップにて、販売などの活動をしている。

2006年 原型師である福西是貴と『nyui』を設立

2007年4月 合同展示会『manicolle tokyo vol.3』に出展

2007年7月 『IFFクリエイターズビレッジ』出展予定

「伝統文化を守る会」は、「nyui」の益々のご活躍を応援してまいりたいと思っております。

詳細は同封のパンフレットをご覧ください

お問合せは 「グランベル」まで

21st Asian Fashion Show

Equatorial Penang 5 August 2006



作品名:源氏物語 素材:袋帯



今年も大会委員会より感謝状を頂きました 国際ショー会場で謝氏との再会に大感激 国際会議は同時通訳のイヤホンが活躍

ある日のこと、母の元に袋帯が届きました。お手紙に、「共ちゃんの娘には横綱になってほしい・・・」との夢を託した暖かい文が綴られていました。母の故郷、青森の中学・高校の同級生だった相馬禎子様からの贈り物です。私は、相撲王国、青森人の心意気と友情の絆に深く感動しました。

私は今、ねぶたばやしの和風ロックのリズムに乗ってこの原稿を書いています。不思議と筆が進みます。人は誰も嵐の中に住んで力強く今を生きる・・・(CD:ザ・コブラツイスターズ・嵐に住む人より)「さあ、頑張ろう!」と思った時に、怠け者の私の背中を後押ししてくれる素敵な歌詞なのです。1999年にビクターからデビューしたこのファーストアルバムを聞きながら「源氏物語」のデザインは生まれました。1994年国際舞台にデビュー以来13回目、西村宏美の新作「源氏物語」は、日本人らしい渋い味、「いぶし銀のような雅」を、世界の人々にアピールできたような、そんな手ごたえを感じました。

母の親友はザ・コブラツイスターズのリーダーのお母様でした。今年の春から話題沸騰のNHK人気BSアニメ「シルクロード少年ユート」のエンディングテーマ「天まで届け」は、厳しい激戦の音楽界で長年頑張りぬいた相馬禎子様の息子様、相馬圭二さんの作詞作曲です。ロック界の横綱誕生、おめでとうございます。私も「天まで届け」を聞きながらファッション界の横綱を目指して頑張ります。宏美



吹き抜けのメインロビーからプールへマレーシア・ペナン・エクアドルホテル..... プールに隣接した南洋植物大

杭州世界レジャー博覧会Fashion Show

世界貿易センターホテル 2006年10月8日開催

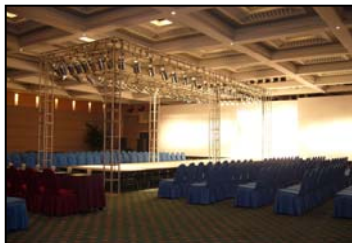


作品名：日本 素材：丸帯

総合プロデュースを初担当しました



作品名：鈴懸の径 素材：袋帯



音響・照明が最新設備の会場



人民政府主催の歓迎晩餐会にて



本番前は、嵐の前の静けさのよう・・・

中国政府主催の日中友好ファッションショーに始めて参加させていただいたのは1999年、日本の京都といわれる古都「西安」でした。以来四回目を迎え「友好の絆は継続の力の賜物」だと思えます。本番の前日に現地入りした日本人メンバーは、宿泊先ホテルで歓迎晩餐会のおもてなしを受けました。ホテル名も友好大飯店。1996年に岐阜の企業と合弁で杭州に初建設された西洋式ホテルで、地元で最も古い老舗のホテルです。豪華な料理と心温まるおもてなしに、ローマの諺と同様に「日中友好の絆も一日にして成らず」と、実感しました。サッカー等、中国全土で反日感情が高まっていた時でしたから、その思いはなおさら深いものでした。

私が中国を訪れるたびに感じる友好感情とは「漢字」です。近隣のアジアの国、韓国のハングルは日本人にとっては実に不可解です。中国では、一人で食堂に行きメニューを見た時、食材と料理法のおよそのことが解る事がありがたいです。中国で生まれた「漢字の文化」は実にすばらしいと思えます。しかし感性の違いでしょうか。私にとってホテルとは「大泊店」だと思うのですが「大飯店」でしょう・・・。最初はレストランでファッションショーをするのかと思いました。一番驚いたのは「手紙」です。なんと中国では「トイレットペーパー」の事でした。ちなみに、トイレは「手洗間」ですから、私は「手紙」も、なるほどね・・・と、後から納得したものです。

そんな訳で言葉も出来ない私ですが、この度台本作りから演出構成企画までの総合プロデュースを初担当しました。西村宏美の主催ではなく日中友好の中国政府主催のショーなので、プレッシャーに潰されそうでしたが、今では仕事を通して責任感が養われたことに感謝しています。世界貿易センターホテルFS会場は素敵な会場でした。音響照明も洗練されていて、リハーサルも順調に行われました。宏美の出品作品は2005年作、ドイツ・ベルリンに発表した「日本」と、同年地元仙台で発表した「鈴懸の径」、いずれも帯から生まれた作品を中国でも発表させていただき、いろいろな意味で深い達成感を味わいました。つたない私の努力ですが、今後より強い友好の絆となりますように・・・

今夏、8月3日から台湾・台北に出発します。今2007年の海外ショーの新作を作成中です。来年の春に予定しております、「伝統文化を守る会」主催ファッションショーで、会員の皆様にも御披露させて頂きたいと思っています。いつものように、台湾での土産話もどうぞお楽しみに。 感謝をこめて・・・西村宏美



西湖近辺は杭州名産の龍井茶店がずらり・・・・[旅游指南](#)・・・・ショー後中国のベネチア・龍門古鎮を観光

高田吉子さんのデビューは、お父様をはじめ彼女の愛する大切な人たちが天国に旅立ったことがきっかけとなったそうです。相馬圭二さんの「天まで届け」は、若くして亡くなったお父様へのメッセージ・・・いつも彼を応援してくれたお母様への感謝の気持ちから生まれたそうです。西村宏美の父は脳梗塞で倒れ、余命5年と宣告されてもなお、母の献身的な食事療法の成果でしょうか・・・。今も健在で、機嫌の良い日には「鈴懸の径」(父の青春時代に流行したジャズソング)を口ずさんで、パソコンの練習に励んでいます。

アーティストにとって、音楽もファッションも、作品を生み出す力の源は「無償の愛」に対する感謝の心なのかも知れませんね・・・。

鈴懸の帯 (2005年作) 2006年10月、中国・杭州世界レジャー博覧会ファッションショーで発表しました。

父が静かな声でくちさむメロディーに、そっと耳をすましてみると美しいメロディーだった。

題名も判らないのに、なつかしさがこみあげてきた。

いつしか、私も、一緒に小さな声で口ずさんでいた。

父と娘の混声合唱に、母は静かに微笑んだ。

そのメロディーの題名は鈴懸の径。

鈴懸とは落葉樹で、秋に球状の実をつける街路樹である。

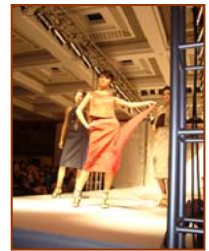
丸い実が風に吹かれ、秋の訪れを告げる自然界のメロディーを、

鈴の音にたとえたのだろうか。素敵な名前だとおもった。

鈴懸の径を老夫婦が寄り添いながら散歩する姿・・・。

丸い実のようなトンボ玉をあしらった、今年の新作に、私は鈴掛の帯と名づけた。

—西村宏美—



天まで届け

作詞・作曲 相馬圭二
編曲 ザ・コブラツイスターズ&中村修司

海辺の街で見上げた空が やけに高くて眩しくて
幼い頃に父と二人で 散歩した日を思い出す

立ち入り禁止 鎖をくぐり
空にそびえる 塔に登った

天まで届け お前の未来 螺旋階段 くるくる回り
天まで届け お前の夢よ そんな願いを込めたのか

旅の途中で見上げた空は やけに蒼くて眩しくて
追い付く事は出来ないけれど いつかは俺も行くだろう

小さな君の 手をとりながら
空にそびえる 塔に登るよ

天まで届け お前の明日 螺旋階段 くるくる回り
天まで届け お前の夢よ そんな願いを込めながら

想いは高く 羽ばたいて行く
天まで届け 旅立つ姿 いつか見送る 時が来るまで
天まで届け 夢見る心 枯れない様に しばめ様に
天まで届け お前の未来 天まで届け お前の明日
天まで届け お前の涙 天まで届け お前の笑顔
天まで届け 天まで届け...
そんな願いを込めながら



去年 今年 立て続けに
たいせつな人たちを 亡くしました
誰もが通過する 痛み...
でも 前に進まなくてはなりません
彼らが好きだった歌が 残りました
私の歌を聴くと 幸せ！と言ってくれた
クラシック界とジャズ界から
CD参加ミュージシャンをお招きし
日本の歌 フランスの歌
オペラアリアからスタンダードまで
今の想いをかたちにします
ひとりひとりの「あなた」へ

心からの愛と感謝の気持ちを お届けします

2007年 春 高田 吉子 Yoshiko Takada, vocal

「高田さん、初めてお会いしてからもう10年が経ちますね。ずっと歌いたい気持ちを秘めていたことを知っていたのでコンサートの開催をうれしく思っています。本当におめでとうございます。

また今回のコンサートにピアノ伴奏として声をかけていただき大変うれしく感じています。CDの収録ではアレンジに素敵な仕掛けがたくさんあると伺っています。発売が楽しみです。

友人のひとりとして応援しています。高田さんの歌が空を突き抜け 天まで届くことを願っています」

ピアノをご担当いただく五十嵐章浩さんからのメッセージ